

愛知淑徳大学  
平成24年度入試結果

過去最多の志願者数  
(1万5604人)が  
集まる

平成24年度入試の総志願者数は、1万5604人で、昨年の1万4590人を若干上回りました。ここ8年間で連続して1万人を超え、本年度の総志願者数は前年比106.9%の微増となりました。少子化で大学全入時代といわれる今日において、総志願者数が年々増加していることはありがたいことであり、本学への評価と期待が高くなっているものと喜んでます。

なお、本年度の各入試の動向としては、実施方法を大きく変更した一般入試(センタープラス方式)で大幅な志願者増となり(前年比208.2%)、これに伴う一般入試(A・B方式)も志願者が若干増加しました(A方式:前年比102.6%、B方式:前年比114.9%)。

それ以外の入試(アドミッションズオフィス入試I・II、公募制推薦入試、一般入試(C方式)、センター試験利用入試I・II期)については、志願者が減少いたしました(それ以外の入試全体:前年比86.8%)。

一般入試センタープラス方式

(本学独自試験1教科(科目)+大学入試センター試験2教科(科目)入試)

学部	学科(専攻)	定員	志願者数	合格者数	倍率
文学部	国文学科	8	198	62	3.2
	英文学科	8	129	91	1.4
	教育学科	8	338	71	4.8
人間情報学部	人間情報学科	16	175	131	1.3
心理学部	心理学科	15	339	148	2.3
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	24	394	247	1.6
健康医療科学部	医療貢献学科	2	50	23	2.2
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	2	48	35	1.4
	スポーツ・健康医科学科	8	152	85	1.8
福祉貢献学部	福祉貢献学科	4	108	51	2.1
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	3	169	13	13.0
交流文化学部	交流文化学科	28	526	258	2.0
ビジネス学部	ビジネス学科	18	335	127	2.6

一般入試A方式(3教科入試)

学部	学科(専攻)	定員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
文学部	国文学科	26	317	310	88	3.5
	英文学科	26	242	239	116	2.1
	教育学科	26	427	418	88	4.8
人間情報学部	人間情報学科	47	205	202	132	1.5
心理学部	心理学科	45	425	420	165	2.5
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	72	425	421	178	2.4
健康医療科学部	医療貢献学科	8	73	71	22	3.2
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	8	46	45	18	2.5
	スポーツ・健康医科学科	28	180	179	60	3.0
福祉貢献学部	福祉貢献学科	14	134	131	45	2.9
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	10	219	215	20	10.8
交流文化学部	交流文化学科	82	685	680	291	2.3
ビジネス学部	ビジネス学科	55	662	645	187	3.4

一般入試C方式(1教科入試)

学部	学科(専攻)	定員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
文学部	国文学科	4	84	77	24	3.2
	英文学科	4	66	62	19	3.3
	教育学科	4	161	155	19	8.2
人間情報学部	人間情報学科	8	97	89	44	2.0
心理学部	心理学科	8	166	151	44	3.4
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	12	202	191	81	2.4
健康医療科学部	医療貢献学科	2	48	48	7	6.9
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	2	66	60	6	10.0
	スポーツ・健康医科学科	5	119	113	8	14.1
福祉貢献学部	福祉貢献学科	3	48	45	8	5.6
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	2	57	56	11	5.1
交流文化学部	交流文化学科	14	273	258	112	2.3
ビジネス学部	ビジネス学科	9	227	209	102	2.0

一般入試B方式(2教科入試)

学部	学科(専攻)	定員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
文学部	国文学科	13	172	163	36	4.5
	英文学科	13	96	92	48	1.9
	教育学科	13	244	234	56	4.2
人間情報学部	人間情報学科	20	113	112	66	1.7
心理学部	心理学科	20	274	269	79	3.4
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	30	373	366	101	3.6
健康医療科学部	医療貢献学科	4	42	41	11	3.7
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	4	50	48	13	3.7
	スポーツ・健康医科学科	12	108	106	24	4.4
福祉貢献学部	福祉貢献学科	7	77	76	20	3.8
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	4	105	104	7	14.9
交流文化学部	交流文化学科	36	355	348	101	3.4
ビジネス学部	ビジネス学科	23	209	198	62	3.2



※倍率=受験者数/合格者数

※一般入試センタープラス方式、センター試験利用入試、アドミッションズ オフィス入試 I は、志願者数=受験者数



昨今、全国各地の大学で受験者募集の苦勞話や、18歳人口の減少による志願者の二極化や不景気による受験者の安全志向がいわれています。今の結果に満足することなく、現実を見つめて来年度の入試も、全学をあげて皆様の期待に応えるべく努力してまいる所存ですので、一層のご協力とご支援をお願いいたします。

### 公募制推薦入試(基礎学力重視型)

学部	学科(専攻)	定員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
文学部	国文学科	15	81	80	72	1.1
	英文学科	15	80	79	57	1.4
	教育学科	15	98	95	37	2.6
人間情報学部	人間情報学科	36	109	107	83	1.3
心理学部	心理学科	27	174	171	39	4.4
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	45	192	191	119	1.6
健康医療科学部	医療貢献学科	8	53	52	20	2.6
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	8	55	53	19	2.8
	スポーツ・健康医科学科	20	87	87	23	3.8
福祉貢献学部	福祉貢献学科	14	56	55	44	1.3
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	10	81	81	14	5.8
交流文化学部	交流文化学科	51	299	292	125	2.3
ビジネス学部	ビジネス学科	34	215	211	89	2.4

### センター試験利用入試I期(3教科(科目)型)

学部	学科(専攻)	定員	志願者数	合格者数	倍率
文学部	国文学科	4	66	20	3.3
	英文学科	4	48	20	2.4
	教育学科	4	77	20	3.9
人間情報学部	人間情報学科	10	68	51	1.3
心理学部	心理学科	8	115	40	2.9
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	15	105	53	2.0
健康医療科学部	医療貢献学科	2	26	10	2.6
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	2	18	9	2.0
	スポーツ・健康医科学科	4	44	20	2.2
福祉貢献学部	福祉貢献学科	3	38	16	2.4
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	2	34	8	4.3
交流文化学部	交流文化学科	17	163	75	2.2
ビジネス学部	ビジネス学科	12	100	47	2.1

### アドミッションズ オフィス入試I

学部	学科(専攻)	定員	志願者数	第1次選考合格者	第2次選考受験者	第2次選考合格者	倍率
文学部	国文学科	若干名	3	1	1	1	3.0
	英文学科	若干名	3	2	2	2	1.5
	教育学科	若干名	3	1	1	1	3.0
人間情報学部	人間情報学科	若干名	8	8	8	7	1.1
心理学部	心理学科	若干名	5	3	3	3	1.7
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	若干名	7	6	6	5	1.4
健康医療科学部	医療貢献学科	若干名	3	0	0	0	—
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	若干名	4	3	3	1	4.0
	スポーツ・健康医科学科	若干名	19	10	9	3	6.3
福祉貢献学部	福祉貢献学科	若干名	2	1	1	1	2.0
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	若干名	6	3	3	1	6.0
交流文化学部	交流文化学科	若干名	13	10	10	9	1.4
ビジネス学部	ビジネス学科	若干名	32	20	20	6	5.3

### センター試験利用入試I期(4教科(科目)型)

学部	学科(専攻)	定員	志願者数	合格者数	倍率
文学部	国文学科	3	67	44	1.5
	英文学科	3	36	25	1.4
	教育学科	3	99	49	2.0
人間情報学部	人間情報学科	7	54	38	1.4
心理学部	心理学科	6	77	51	1.5
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	10	45	31	1.5
健康医療科学部	医療貢献学科	2	25	12	2.1
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	2	21	10	2.1
	スポーツ・健康医科学科	4	30	20	1.5
福祉貢献学部	福祉貢献学科	2	17	10	1.7
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	2	40	21	1.9
交流文化学部	交流文化学科	10	142	71	2.0
ビジネス学部	ビジネス学科	9	74	47	1.6

### アドミッションズ オフィス入試II

学部	学科(専攻)	定員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
文学部	国文学科	15	32	32	18	1.8
	英文学科	15	12	12	12	1.0
	教育学科	15	24	24	14	1.7
人間情報学部	人間情報学科	30	50	50	34	1.5
心理学部	心理学科	27	49	49	26	1.9
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	45	96	96	55	1.7
健康医療科学部	医療貢献学科	8	24	24	8	3.0
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	8	26	25	7	3.6
	スポーツ・健康医科学科	18	58	58	16	3.6
福祉貢献学部	福祉貢献学科	14	23	23	16	1.4
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	10	42	42	9	4.7
交流文化学部	交流文化学科	51	114	112	56	2.0
ビジネス学部	ビジネス学科	34	64	62	37	1.7

### センター試験利用入試II期(2教科(科目)型)

学部	学科(専攻)	定員	志願者数	合格者数	倍率
文学部	国文学科	2	20	5	4.0
	英文学科	2	15	5	3.0
	教育学科	2	26	5	5.2
人間情報学部	人間情報学科	6	21	16	1.3
心理学部	心理学科	6	31	12	2.6
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	8	37	25	1.5
健康医療科学部	医療貢献学科	2	11	3	3.7
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	2	12	3	4.0
	スポーツ・健康医科学科	3	21	5	4.2
福祉貢献学部	福祉貢献学科	2	13	3	4.3
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	2	9	3	3.0
交流文化学部	交流文化学科	8	52	20	2.6
ビジネス学部	ビジネス学科	7	40	18	2.2

※募集人員(=定員)はアドミッションズ オフィス入試I・IIの合算です。



愛知淑徳中学校  
平成24年度入試結果

志願者数は1023人、実質競争倍率は1.8倍。  
中高一貫校への更に高まる期待と関心。

入試科目と試験時間・配点

科目	試験時間	配点
国語	50分	100点
算数	50分	100点
社会	あわせて60分	50点
理科		50点

受験者の平均点、最高点・最低点

科目	全受験者	最高点	最低点
国語	53.5 (67.7)	90	4
算数	54.9 (56.5)	92	0
社会	29.6 (33.4)	47	4
理科	29.3 (27.5)	46	5
計	167.3 (185.1)	255	25

※( )内は前年度

合格者の平均点、最高点・最低点

科目	合格者全体	最高点	最低点
国語	62.1	90	34
算数	64.0	92	29
社会	33.3	47	17
理科	33.4	46	18
計	192.9	255	167



中高完全一貫体制が23年度で完成し、新体制での第1期卒業生の大学受験が始まるうとする1月29日、2012年度の愛知淑徳中学入学試験が実施されました。公立高校の授業料無償化が浸透し、公立中学から公立高校へという道が広がったとはいえ、15歳という多感な時期での高校受験の存在はやはり大きく、受験生にも父母にも中高一貫校の意味が大きなものであることには変わりありません。また、高校受験によつて分断されないカリキュラムの合理性は、その後の大学受験を考えるとますます重要になってきていると言えます。

本校では、受験科目が国数社理の四教科、定員280人という体制に移行してか

ら7回目の入試となり、1月の最終日曜である1月29日(日)に実施しました。他校については、南山中(女子部)が本校の前日の1月28日(土)、金城学院中と愛知中が1月21日(土)、聖霊中が1月22日(日)、椋山女学園中は本校と同じ29日(日)、滝中は2月5日(日)と、昨年度に準じた日程で実施されました。

今年度入試の本校への志願者は1023人、受験者は927人でした。その結果、合格者は515人となり、実質競争倍率は1.8倍でした。昨年度は国語の平均点の高さが、合格最低点を押し上げることとなりましたが、今年度は理科を除いて昨年度平均点を下回り、合格最低点は167点(得

点率55.7%)と昨年度を下回りましたが、受験生の実力が伯仲していることは例年と変わらない状況でした。その後、繰上げ合格者を27人出し、最終的な入学者は284人となりました。

高校入試のない完全中高一貫カリキュラムが始まって7年目を迎え、今春にはその第1期生が卒業しました。高校2年から文型・理型に分かれ、高校3年では文I型(私大文系)・文II型(国公立文系)・理型に分かれる新カリキュラムも定着し、6年一貫教育が本格的に動き始めました。本校の中高一貫教育が一人でも多くの受験生や保護者の理解を得て、来年度はさらに多くの受験生が本校を志望してくれることを期待しています。